

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	ナイト	Lv.1:	ウォーリア	レベル	21
サポートクラス	バード	Lv.1:	バード	性別	♀
称号クラス				年齢	3歳
種族	ベスティア(アクイラ)			境遇	
出自(効果)				目標	

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	31	9	21	9	27	34	9
ボーナス	10	3	7	3	9	11	3
クラス修正	2	1	1	0	1	2	1
他修正							
能力値	12	4	8	3	10	13	4

HP	251
MP	149
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ナイトシールド		0	0	0	15	7	-1	
左手	ディフェンドメイス			13		3	5	-1	-2
頭部	ミスリルヘルム				-2	10	1		-1
胴部	×								
補助	スターポイントアーマー				-1	12			-1
装身具	高級楽器								
能力値			4	0	8	0	13	18	17
スキル						47	41		
その他									
総計(右)			4	0					
総計(左)			4	13	5	87	67	16	13
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	10			10	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	10			10	+ 2 d
エネミー識別	3			3	+ 2 d
アイテム鑑定	3			3	+ 2 d
魔術判定	3			3	+ d
呪歌判定	13	10		23	+ 3 d
錬金術判定					+ d

所持品	
コーデックス	
ユミナのチャーム	
ハイHPポーション	
ハイMPポーション	
万能薬	
耐毒符	
冒険者セット	
拡声の石	

現在重量: 25  
 最大重量: 31  
 所持金: 591144  
 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ベスティア:アクイラ	★		パッシブ				手×	
効果: 風属性/飛行能力/素手の攻撃力CL+3								
バッシュ	1	4	メジャー	武器	単体	命中		
効果: 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]								
	1							
効果: 呪歌コスト-2、バードスキルコスト-2								
	1							
効果: 高級楽器、コーデックス								
	1							
効果: ヒューマナイズ								
	★		登場時		自身	自動		
効果: 人の姿で登場する。マイナーで解除可。感知vs精神で看破できる								
アニマルハンド	★		パッシブ					
効果: 手に装備可								
スケイルスキン	★		パッシブ				胴×	
効果: 物防CL+2、魔防+2								
	1							
効果: カバーリング								
	★	2	DR直前	至近	単体	自動	MP1	
効果: カバームーブ								
	◇	4	カバーリング		自身	自動	シールド	
効果: カバーリング20m								
	1							
効果: シルバリソング								
	★		パッシブ					
効果: 呪歌判定+1D								
アレグロ	○		パッシブ					
効果: 呪歌判定+10								
パーフェクトシールド	◇		パッシブ				盾装備	
効果: 盾の物防+SL×3								

邪神の核としての役割をトワが肩代わりした際に元のカナリアの姿に戻ったが、一度邪神に取り込まれ外界のエネルギーに触れたことで来訪者ベスティアと同様の性質を得た。エアリィの冒険が再び始まる

やぁ良い子たち。今日もお勉強を頑張ったご褒美に、お話をひとつ聞かせてあげよう。

君達は炭鉱のカナリアを知っているかな？  
 みんなが生まれるよりもずっと昔の話さ。  
 まだ魔術や機械が発達していなかった頃、炭鉱に流れる体に悪いガスから身を守るために、鉱夫たちは籠入りのカナリアを仕事場に持ち込んだんだ。  
 私たちより遥かに小さく敏感な彼らは、ほんの僅かなガスにも反応して弱り、さえずりをやめる。  
 そうすることで、人間に書か及ぶ前に知らせてくれていたんだね。

当然いくつもの儂い命が犠牲になった。鉱夫たちはその骸を手厚く葬り、日々感謝して暮らしていたよ。  
 でもね。一人の若い鉱夫にはそれが耐えられなかった。  
 彼はある夜中のうちに、こっそりカナリアを全部逃がしてしまったんだ。

みんなからたくさん怒られて仕事を失ってしまった鉱夫は、その後ずっと森の外れに建てた家にももっていた。  
 自分のした事は本当に正しかったのかと自問しながらね。

長い月日の後、ある日のこと。彼は何者かが戸を叩く音を聞いた。



